胃がん検診について

○胃がん検診を受診できない方

①妊娠中または妊娠中の可能性がある方。
②昨晩の午後９時以降に食事(ガム等含む）をされた方、お茶・水以外の飲み物を飲まれた方。
③検診当日の朝、お茶・水を１００ml以上飲まれた方。（薬の服用時も含む）
④これまでに胃・十二指腸の開腹手術や腹腔鏡下手術（おなかを切らないで、おなかにカメラを挿入して行う手術）を受けたことがある方。
⑤現在、胃がん・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・腸閉塞などの胃・十二指腸関連の疾患の診断で、治療中の方。
⑥バリウムアレルギーのある方、下剤の過敏症のある方、すなわちバリウムや下剤を飲んで、体が痒くなったり、舌がしびれたり、体調を悪くされた経験のある方。
⑦過去に、バリウムや食べ物が気管や肺に入り込んで、病院（医院）で誤嚥と診断されたことがある方。
⑧腎機能障害で透析中の方。
⑨腹部に何らかの症状（痛みなど）がある方。
⑩身体が不自由で、体位変換や手すりを保持できない方。
⑪天板（寝台）の強度上、体重が１３５kgを超える方。
⑫検診日当日に血圧が高い方。
⑬検診当日、体温が３７．５度以上、風邪症状が持続している方。

○胃がん検診の受診前に必ずかかりつけ医にご相談していただきたい方

①以下のような腸疾患を治療中、もしくは治療を受けたことのある方。
・炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）で治療中の方。
②現在、何らかの疾患で、水分制限・運動制限のある方。
③腹部手術を受けたことのある方。
④便秘が強く、お薬を飲まれている方。
⑤検査前3日間（72時間）排便のない方。
⑥心疾患で1年以内に手術された方。
⑦虚血性心疾患で1年以内に発作があった方。
⑧心臓ペースメーカー又は除細動器を使用している方。（透視Ｘ線装置による誤動作の可能性があるため）
⑨脳圧亢進シャント中の方、また、脳血管障害・頭部手術を１年以内に受けられた方。
⑩脳血管障害で1年以内に発作のあった方。
⑪呼吸器疾患で1年以内に手術された方。
⑫喘息発作時の治療中の方。

○胃がん検診の受診の際の注意事項

①治療中の疾患がある方（血圧などの投薬等がある方）は必ず主治医の指示を受け、検診当日の服用等については主治医の指示（薬の服用の仕方など）に従ってください。なお、服薬の際には上記の水分量（合計で１００ml未満）をお守りください。また朝食は摂れませんので、糖尿病治療薬は内服しないでください。糖尿病治療薬の再開時期などは、必ず主治医の指示に従ってください。
②何らかの理由により検診車への昇降が困難な方、担当者の指示通りの体位を維持することが困難な方は検診をご遠慮いただくことがあります。また検診ができても結果が判定不能となる場合がありますのでご了承ください。そのため事前にご心配なことがある場合は検診日までにご相談ください。また検診当日に診療放射線技師が受診することが困難と判断した場合もご遠慮いただくことがあります。ご了承ください。
③ボタン、プラスチック、金属類のない無地で薄い服を着用し、腹部を圧迫しない状態で受診してください。上記のような服装ならば、検診着に着替えていただく必要はありません。なお、ブラジャー、サロンパス、エレキバン、カイロ、湿布等ははずしてください。
④検診後バリウムが長時間腸内に残っていると、バリウムがだんだん硬くなり、排出しにくくなります。そのため消化管穿孔、腸閉塞、腹膜炎などを引き起こす恐れがあります。検診後はできるだけ早くバリウムを排出させるため、下記の指示に従ってください。
１）検診後、できるだけ早く下剤２錠をお水でお飲みください。
２）検診後は、できるだけ多くの水分を摂ってください。
３）下剤服用後６～８時間経過してもバリウム便（白い便）の排出がみられない場合は、予備の２錠をお飲みください。
４）それでも排便がない場合、お腹がはったり、腹痛が生じた場合は、医療機関を受診してください。
⑤肌が弱くけがをよくされる方、以前にバリウム検査でけがをされた方は長袖の着用をお願いします。検査着も準備していますので、スタッフに申し出てください。
⑥造影剤（バリウム）を飲み込む際に誤って気管支に入ってしまうと肺炎等を起こし呼吸困難や場合によっては生命に危険が生じる可能性があります。